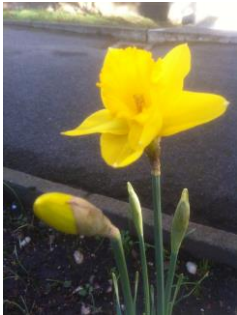


平成30年度ゴールに向かって

「志定まれば 気盛んなり」

校長



陽射しは日に日に明るくなり、春がすぐそこまで来ているように感じます。今日からいよいよ3月、本年度も修了式まであと約2週間を残す時期となりました。学校では、高校受験を終えて無事に戻った中学部3年生の姿が日毎に多く見られるようになりました。小学部・中学部とも、学習や生活のまともに取り組み、今年度の振り返りを行うとともに進級・進学への意識も高まってきています。いよいよ別れと旅立ちの日が近づいてきました。

さて、小学部では、2月22日に「6年生を送る会」が行われました。1年生から5年生までの各学年が、お世話になった6年生に歌やダンスなどの趣向を凝らした出し物を披露しました。その後、全員で「グッデーグッバイ」を歌いました。温かい歌声が会場いっぱい響き渡り、小学部児童全員で心のこもった感動あふれる会になりました。送る会の企画・運営では、5年生がリーダーシップを発揮し、頼もしさを感じました。

また、本日、中学部の「3年生を送る会」が催されました。1、2年生の各学級から、お世話になった3年生に感謝の気持ちをこめて、旅立ちを祝う出し物が披露されました。小学部・中学部とも、心に残る素敵な会になりました。

日々の授業や運動会、文化祭などの学校行事や現地校との交流など、子ども達は、この1年間、様々な活動を通して大きく、そしてたくましく成長しました。子ども達一人ひとりの努力と頑張りを心から賞賛したいと思います。数少ない残りの日々の日一日を大切に、子ども達が、「感謝の気持ち」と「前向きな姿勢」をもって、進級・卒業できるように指導・支援に努めてまいります。

最後になりますが、派遣教員のうち6名が今年度末で帰国し、現地採用教職員2名が退職・離任いたします。それぞれが、自分のもてる力を尽くして子ども達と向き合い、真摯に職務に取り組んでまいりました。保護者の皆様には、今後とも本校に対する深いご理解と変わらぬご支援お願い申し上げます。

教育者であった吉田松陰は「志定まれば、気盛んなり」という言葉を残しました。これは、目標への気持ちがあはつきりすれば、自ずとやる気や意欲が生じるということです。さらに、松陰は、目標を定める理由、目標を達成する意味を明らかにし、本当に価値のあることか、考えることが大切であると教えています。松陰は、「抄録」という方法で、今日の学習指導要領にも繋がる「自分で考える主体的な学び」をさせていました。感銘したり共感したりした文章を自分で選んで、そこに付箋を貼る。次に、なぜその文章に惹かれたのか考えながら、文章を写す。そして、その文章をもう一度よく読んで考えてみるという方法です。これは、自分の感じたことや考えたことをより深め、書いた人の考えを主体的に自分の考えにすることができるのです。その考えに自分の目標を照らし合わせることで「志」が生まれ、本当の意味で身に付いた考えになるというものです。これを何回も繰り返して、「志定まれば、気盛んなり」を実践させたと言われています。

子ども達にも、なりたい自分を想像し、志がもてる教育ができればと思います。そうすれば、自分でやってみようと前向きに、やる気に溢れるでしょう。

